薬剤管理指導業務に活用できるPOSデータベースの開発

Development of POS (Problem oriented system) supporting database for pharmaceutical care.

○大野逸子、杉平直子
メディカルデータベース株式会社
Itsuko Ohno　Naoko Sugihira
Medical Database Co.,LTD.

【目的】POS（Problem Oriented System）は患者の問題点を明確化し、論理的・系統的に問題解決することにより、薬剤管理指導業務の質の向上に寄与すると考えられている。しかし一方で、薬剤師の経験やスキルに依存した患者ケアのばらつきや、記録に時間がかかるといったことが懸念されている。そこで、カルテや初回面談から得られる患者プロフィール（患者情報）や処方監査情報に関わる問題点の抽出とケアを標準化し、SOAP形式による指導記録の作成を支援するデータベースの開発を行った。

【方法】薬剤管理指導を実施する上で患者情報に基づいた処方解析が重要であるとの観点から、薬剤師が必要とする患者情報の中から、問題点抽出の鍵となる項目をキー項目として設定し、各キー項目とプロブレムの関連付けを行った。各プロブレムには、問題解決の手段として、患者への確認事項や観察項目、対処方法を標準ケア計画（プラン）として設定した。また、処方監査情報（相互作用、アレルギー既往禁忌など）についても同様に、キー項目を設定し、プロブレム・プランを作成した。さらに、プランの実施により想定される、S（主観情報）、O（客観情報）やそれらに基づく一般的なA（アセスメント）とP（指導計画）をリストアップしてデータベース化することにより、SOAP形式による標準的な指導記録の作成支援を可能とした。

【結果・考察】データベースを活用することにより、POSの手法に基づく問題点の抽出とケア計画が標準化され、情報を整理して記録することにより、情報の共有化と継続的な管理が容易となる。また、既に開発されている処方監査データベースによる監査情報と連動することにより、よりきめ細やかな問題点の抽出と薬学的管理が可能になると考える。さらに、患者個々の問題に対応した詳細なデータや評価を付加することにより、効率的で質の高い薬剤管理指導業務が行えるものと考える。